

次世代型人材育成計画アクションプラン

取組事項(内容)		改革の方向性	アクション・プラン														
			工程表														
			平成29年度				平成30年度				平成31年度		平成32年度		平成33年度		
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月						
1. 学士課程における教育改革																	
普遍教育科目群の改革	【全】	<p>普遍教育全般を見直す。特に語学力向上WGの議論を踏まえ、英語科目の体系化と段階化を図る。初修外国語科目、スポーツ・健康科目、情報リテラシー科目など科目ごとの見直しを行う。</p>	英語カリキュラム策定委員会における検討 体系的な英語教育 英語教育のデジタル化等	英語科目 制度設計	英語科目 策定												見直し後の科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う
			普遍教育における非常勤講師のあり方に関するWGにおける検討	英語以外の科目 の見直し	英語以外の科目の 制度設計	英語以外の科目 策定											
							情報リテラシー科目の 検証・改善										
データサイエンス教育の充実	【全】	<p>新しい普遍教育の方向性としてSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育の充実を図るとともに、千葉大学におけるデータサイエンス教育を、普遍教育と学部専門科目を通じて体系化する。</p>	制度設計	カリキュラム策定	試行、制度設計見直し												本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う
国際日本学の充実	【全】	<p>国際日本学の副専攻について、現在の国際コア1単位必修から、2単位必修に拡大するにあたって、e-learningを含めて必修科目を設定する。</p>	制度設計		カリキュラム策定(e-learning教材作成)	試行、見直し											本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う
地域連携教育の充実	【全】 【地】	<p>千葉大学における地域連携教育を充実するため、サーティフィケートプログラムであるコミュニティ再生ケア学、副専攻である地域産業イノベーション学を充実させる。現在の地域コア1単位必修から、2単位必修に拡大するにあたって、e-learningを含めて必修科目を設定する。</p>	制度設計		カリキュラム策定(e-learning教材作成)	試行、見直し											本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う
倫理教育の充実	【イ】 【全】	<p>千葉大学における倫理教育を充実するため、普遍教育科目と学部専門教育科目を通じて、研究倫理と社会倫理の双方の教育プログラムを確立する。</p>	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)		ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)	ガイダンスで倫理教育実施(学部・大学院)
			導入教育で倫理教育を実施(学部・大学院)														
			e-learning等の検討・実施		e-learning等の実施												
					各学部における倫理教育科目実施時のサポート												
					「ジェンダーを考える」科目群、論理コア科目強化の検討												検討後の科目実施
					ソーシャルラーニング実施状況の確認、単位化に向けた方策の検討、学生ボランティアの戦略的な組織化												
					体制、教育効果等の検証方法の検討(基幹キャビネット会議による検討含む)												体制、教育効果等の検証・改善
学生の意識・満足度調査の拡充	【イ】 【ア】	<p>教育改革にあたって、現在行われている学生の意識・満足度調査を拡充するとともに、特にステークホルダーによる評価などに基づく教育改善を行う。</p>			卒業生・修了生、在学生への調査実施(従来からのもの)												webによる調査実施 / 以後、検証・改善を適宜行う
					調査のweb化等の検討												
英語教育の充実	【イ】	<p>普遍教育科目における英語教育及び専門教育科目における英語教育において共通した「千葉大学における英語教育の目的」に基づき英語教育を実施する。普遍教育における英語教育については、コミュニケーション能力の育成を中心としつつ、4技能を高いレベルで運用できる能力を身に付けるための教育を中心とし、専門教育科目における英語教育については、特にアカデミックライティングとアカデミックプレゼンテーションの二つの能力の涵養に資する教育を中心とする。</p>			「千葉大学における英語教育の目的」の検討、策定												実施 / 以後、検証・改善を適宜行う。
教育内容・方法に関する改革	【イ】 【全】	<p>教育の国際化を推進するため、二言語併用授業科目の拡充も含めた英語による授業科目の充実、文系理系を含めて学生全員が等しく学ぶコア科目の見直し、学生の能動的な学修の実現のためのmajor, concentration, minorなどの3層構造の専攻の創設、海外の有力な教育研究機関や研究の要素を有する国際機関による教育プログラムの実施・検討、学生の学修意欲を刺激するため、世界的に有名な研究者が日本に滞在する間を利用した特別講義の充実を行う。</p>	英語による授業科目の制度設計 ・新任教員の英語による授業科目の担当 ・二言語併用授業科目の拡充等		英語による授業科目、見直し後のコア科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う												
					コア科目の見直し		major, concentration, minorなどの3層構造の専攻の検討 / 試行 / 検証・改善										
					特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施

※「取組事項」には担当するセンター名等を付している。基幹全体に関わる事項:【基】、イノベーション教育センター:【イ】、全学教育センター:【全】、国際教育センター:【国】、学生支援センター:【学】、キャリアセンター:【キ】、入試センター:【入】、高大接続センター:【高】、地域

次世代型人材育成計画アクションプラン

		アクション・プラン										
取組事項(内容)	改革の方向性	工 程 表										
		平成29年度				平成30年度				平成31年度	平成32年度	平成33年度
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
2. 大学院課程における教育改革												
大学院における共通教育・高度教養教育の実施	【全】	研究大学にふさわしい、ブレFDを含む大学院共通教育を実施するとともに、大学院レベルの高度教養教育科目群を創設することによって、専門と教養のバランスの取れた大学院教育を実現する。また、多分野混合教育を通じて新しい研究シーズの発見につとめる。	キャンパスアジア科目による大学院共通教育の試行									
			試行版の検討			試行版の実施			本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う			
			平成31年度本実施に向けた検討・カリキュラム(体系的、連続性等)・授業科目・事務体制等									
大学院組織の再編と文理混合大学院の創設	【イ】	平成29年度に設置される、融合理工学府および人文公共学府における教育を着実に実施するとともに、完成年度を見据えてカリキュラムの不断の見直しを行う。また、平成32年度を目途に、国際教養学部と接続する文理混合大学院を創設する。	設置計画履行状況等調査(AC調査)報告書対応(修士課程)						検証・改善			
			設置計画履行状況等調査(AC調査)報告書対応(博士課程)							検証・改善		
			文理混合大学院の検討			文理混合大学院の設置申請準備				設置、設置計画履行状況等調査(AC調査)報告書対応		
融合理工学府における先進科学プログラムの実施	【イ】	融合理工学府において「先進科学プログラム」をはじめとする学部との一貫教育を実施する。	募集スタート						先進科学プログラム限定科目の計画・運営等		1期生修了	
						中間評価					最終評価	
ダブル・ディグリー・プログラムの実施	【イ】	千葉大学内、国内大学間、海外大学間でダブル・ディグリー・プログラムを実施する。	【国内・大学内】国内、大学内におけるダブルディグリーを認める制度が整備され次第、可及的速やかに学内の制度等を検討・実施									
			【海外】各研究科において、必要に応じて、制度設計のうえ実施									
英語教育の充実	【イ】 【全】	「千葉大学における英語教育の目的」に基づき、学術英語を修得することを目的として、大学院共通教育において英語科目を実施する。				「千葉大学における英語教育の目的」の検討・策定						
						大学院共通教育における英語科目の検討		試行実施	本格実施 / 以後、検証・改善を適宜行う。			
						Grammarly導入など、適宜検討を行う。						
教育内容・方法に関する改革	【イ】 【ア】	教育の国際化を推進するため、二言語併用授業科目の拡充も含めた英語による授業の推進、高機能TAを活用したアクティブラーニングの拡充、海外の有力な教育研究機関や研究の要素を有する国際機関による教育プログラムの実施・検討、学生の学修意欲を刺激するため、世界的に有名な研究者が日本に滞在する間を利用した特別講義の充実を行う。	英語による授業科目の制度設計・新任教員の英語による授業科目の担当・二言語併用授業科目の拡充等			英語による授業科目の実施 / 以後、検証・改善を適宜行う			大学院共通教育の実施と合わせて高機能TAを活用したアクティブラーニングを拡充			
			特別講義の計画・実施			特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施		特別講義の計画・実施	特別講義の計画・実施	
※「取組事項」には担当するセンター名等を付している。基幹全体に関わる事項：【基】、イノベーション教育センター：【イ】、全学教育センター：【全】、国際教育センター：【国】、学生支援センター：【学】、キャリアセンター：【キ】、入試センター：【入】、高大接続センター：【高】、地域												
3. 学士課程から大学院課程を通じた教育改革												
次世代型人材育成のための全学的な教学マネジメントの整備、教育に関する継続的な評価システムの確立	【基】	平成28年度に策定した「次世代型人材育成計画(Garnet Plan)」に基づく教学改善を自律的・継続的に行うための「PDCAサイクル」の内部保証システム構築に向けて、「国際未来教育基幹」の更なる機能強化に向けた組織体制のあり方について検討する。	評価システムの検討	教学マネジメント体制の検討		教学マネジメント体制の整備・進捗管理			各センターによる自己点検・中間評価	中間評価に基づく改善対応の検討	改善対応のフィードバック	各センターによる自己点検・最終評価
3ポリシーの継続的見直し	【イ】 【入】	平成29年4月1日付で改訂するディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを継続的に見直すとともに、カリキュラムマップの導入とナンバリングの大学院後期課程への拡充を図る。	見直し後の3ポリシー公表			3ポリシーの適宜見直し						
			カリキュラムマップ検討			見直し・調整		公表 / 以後、毎年見直し				
			博士後期課程におけるナンバリング検討			公表 / 以後、毎年見直し						
ラーニングポートフォリオの導入	【イ】	現在キャリアポートフォリオにおいて部分的に実現されているラーニングポートフォリオを全面的に導入することによって、学生の学修過程の視覚化と教員とのインタラクティブな学修指導を実現する。	導入検討			試行			試行 / 以後、段階的に導入			

次世代型人材育成計画アクションプラン

取組事項(内容)		改革の方向性	アクション・プラン												
			平成29年度				平成30年度				工程表				
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	平成31年度	平成32年度	平成33年度		
学部・大学院の接続	【イ】	成績優秀な学部生が大学院の授業を履修できる条件と仕組みを整え、高度で効率的な教育課程を提供する。	大学院共通教育と併せて検討				→				本実施 / 以後、検証・改善を適宜行う				
外国人留学生の組織的な受入れ	【国】	優秀な外国人留学生の組織的な受入れに関する総合的な支援体制を強化する。	・学生の交流情報の一元化(協定管理・国際広報等)体制の見直しと広報活動の改善	→	・学生の交流情報の一元化(協定管理・国際広報等)新体制の構築と試行	→	・学生交流協定のアップデートと派遣受入れ情報の一元的管理体制を構築し、これを踏まえた国際広報活	→	・全学的に学生交流協定の戦略的な締結・更新を推進し、国際広報活動による派遣受入れの円滑化を図	→	・体制等の見直し・改善を行い、学生交流情報の一元管理による派遣受入れ支援の促進を図る。	→	・見直し改善を行い、留学生の受入れ増加に資する情報発信を行う。		
日本人学生の留学促進	【国】	日本人学生の海外留学に関する総合的な支援体制を強化する。	・各種受入れプログラムの総合的な情報提供 各種受入れプログラム情報提供の課題検証	→	・各種受入れプログラムの総合的な情報提供 総合的な情報提供策の立案と試行	→	・各種受入れプログラムの総合的な情報提供を展開	→	・各種受入れプログラムの総合的な情報提供の展開をさらに促進する。	→	・見直し改善を行い、留学生の受入れ増加に資する情報発信を行う。	→	・日本語を含む受入れプログラムの実施の見直し・改善により留学生の学習・生活支援を充実させる。		
デジタル・スカラシップ機能の実現	【ア】	これまでアカデミック・リンク・センターで提供してきた教材開発、提供環境の機能を、デジタル・スカラシップ機能として再編、強化し、教育にブレクスルーをもたらす次世代型デジタルプラットフォームを開発、研究成果をダイレクトに教育に活かす環境を構築、運営する。	プラットフォームの全体像構築	→	研究成果のデジタル・アーカイビング環境構築	→	プラットフォーム本格運用	→	デジタル資源の収集・加工や電子出版を含む利活用	→	技術や環境の変化にあわせて、プラットフォーム等の機能を最適化し、研究・開発と実践の循環による継続的な強化を図る。	→	デジタル研究資源・研究成果のメタデータ設計開発	→	デジタル研究資源・研究成果の利活用にむけたのメタデータの実装
リサーチコモンスの実現	【ア】	これまでアカデミック・リンク・センターが、主に西千葉キャンパスで提供してきた学部生をターゲットとしたラーニングコモンスの提供とプログラムの実施をリサーチコモンス機能として再編強化、全学展開し、大学院レベルでの文理混合・学際的でオープンな知的交流を実現し、このような場を踏まえた大学院共通(教養)教育プログラムを、実践と研究・開発の連携を図ることで継続的に提供する。国際的な動向の調査などを踏まえ、分野横断的な大学院共通(教養)教育プログラムを研究活動に立脚した形で企画、立案し、状況の変化に柔軟に対応することで継続性を確保する。場としてのリサーチコモンスにおける大学院生を対象としたプログラムを企画、立案評価する。特に松戸キャンパスの学修環境整備については施設整備計画とも連携し、24時間対応の先進的なリサーチコモンス機能展開を検討する。	国際的動向の調査・分析	→	リサーチコモンス本格運用	→	大学院共通プログラム実施	→	リサーチコモンス評価	→	技術や環境の変化にあわせて、リサーチコモンスとプログラム支援機能を最適化し、研究・開発と実践の循環による継続的な強化をはかる	→	松戸キャンパスリサーチコモンスの検討	→	松戸キャンパスリサーチコモンス運用
IR・FD・SD連携	【ア】	教育IR機能を強化し、FD・SD体制の集約化を図ることで、上記3部門における活動の効率化を実現し、研究・開発力を基礎に継続的に機能を強化する。これまでに進めてきた教育および研究にかかわるIRの連携を固め、その成果を反映したFDやSDを企画、実施する。特にラーニングマネジメントシステムのログデータなどの各種データの教育IRでの活用を検討する。その上で教育や研究に関する中長期的な方針の立案に貢献する。	教育IRと研究IRとの連携検討試行	→	教育IRと研究IRとの連携開始	→	IRや他部門の成果を反映したFD、SDの企画試行	→	IRや他部門の成果を反映したFD、SDの実施	→	技術や環境の変化にあわせて、IR、FD、SD機能を最適化し、研究・開発と実践の循環による継続的な強化をはかる	→	最新の研究動向を踏まえた教育IRの企画、実施	→	教育IRの成果を踏まえて新たなFD、SDの企画、実施
			教育共同利用拠点を活用した教育・学修支援専門職の養成開始	→	教育共同利用拠点を活用した教育・学修支援専門職の養成継続	→		→		→		→	ラーニングマネジメントシステムのデータ活用の検討	→	データを活用した教育IRの実施

※「取組事項」には担当するセンター名等を付している。基幹全体に関わる事項：【基】、イノベーション教育センター：【イ】、全学教育センター：【全】、国際教育センター：【国】、学生支援センター：【学】、キャリアセンター：【キ】、入試センター：【入】、高大接続センター：【高】、地域

